

# 大阪シティバス研修報告

10月24日に大阪シティバス中津営業所で、現在運転手として稼働されている方や、これから新しく運転手として働く方を対象とした、障害当事者に対する接遇研修を行ってきました。

現在、春と秋の年2回研修を行っていきまして、今回で6回目となります。



色々な車椅子の説明

当日参加される現任の運転手さんが一番集まりやすい時間ということで、お昼の12時から13時半で行いました。お互いの挨拶の後、まずは車椅子の仕組みや機能などの説明をし、次にスロープや段差などでの対応の仕方などを見てもらいました。その後、実際に車椅子を押す側・乗る側の両方を体験してもらいました。

毎回、シティバスさんからのご好意で、営業所に置いてあるバスをお借りして、車椅子での乗降のサポートや、実際に車椅子に乗ってバスの乗降を体験してもらいました。

今回初めて段差用のパレットを持参し、段差を道路上の歩道と見立てての体験をしました。いつも路面に直接バスからスロープを出していましたが、スロープがかなり急勾配になります。実際は歩道に面するバス停が多く、なだらかなスロープとなるので、それを再現しました。しかし、歩道が高くなっていないバス停もいくらかあるため、路面からの急勾配パターンも両方体験して頂きました。



段差ありの乗降介助



段差なしの乗降介助

乗り越える時、前輪を浮かす動作で高く上げすぎてしまったり、バスから降りる時のスピードが速くなり過ぎたり、初めて車椅子のサポートをする人達はコツを掴むまで時間がかかっていました。

初めて車椅子のサポートをしたという人達からは、思っていたよりも、人が乗った車椅子の操作が難しかったことや、介助される側の怖さや不安などを体験できたのがすごく良かったとの感想がありました。

色々な障害に対するそれぞれの配慮の仕方や、同じ障害であってもその人それぞれに合ったサポートがあることを伝え、まずは当事者とのコミュニケーションをとって、その人にとってどのようなサポートが必要かを確認することが大事だと伝えました。



最後に、私、中塔の自身の自立生活の紹介を元に、重度の障害者が一人で、または家族と同居して、施設ではなく地域で当たり前のように暮らしていることなどを伝えました。そのため昔と違い現在は、障害当事者が学校や職場に通うことや遊びに出かける社会参加の機会が増えているため、公共交通機関を利用することは当たり前となっていること、大切な移動手段であることをお伝えしました。

これからは、もっと多様な人々(外国人、高齢者、障害者、ベビーカー・妊婦)が多くバスを利用されますので、それぞれの人に合った対応を心がけて下さいと伝え、研修を終了しました。

今回も管理者の方を含め、たくさんの方々が参加していただき、ありがたい限りです。ただ、残念だったのは、業務中に研修を行うため、現任の運転手さんの参加が難しかったことです。



簡易電動の操作体験

次回は春に行く予定ですが、また今回と違った視点で研修を行いたいと考えています。

(あるくる 中塔)

